

令和3年度第1回広島県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和4年3月23日（水） 14時00分～15時30分

2 場 所 広島市中区基町4番1号
広島県立総合体育館地下1階 大会議室

3 出席委員（50音順）

青木 誠（広島県小学生体育連盟理事長）
尾方 剛（広島経済大学経営学部准教授）
川西 正行（広島文教大学教育学部教育学科教授）
隈元 美穂子（国連訓練調査研究所（国連ユニタール）持続可能な繁栄局長）
河野 裕二（公益財団法人広島県スポーツ協会常務理事）
小西 啓二（広島県都市教育長会（大竹市教育委員会教育長））
菅田 耕治（広島県中学校体育連盟会長）
関口 昌和（一般財団法人どんぐり財団専務理事）
田河内 秀子（広島県中小企業家同友会副代表理事）
土井長 和典（一般社団法人広島県障害者スポーツ協会常務理事（兼）事務局長）
西原 淳（一般社団法人世羅町観光協会事業部長）
三浦 朗（県立広島大学総合学術研究科人間文化学専攻専攻長）

欠席委員（50音順）

上村 幸江（広島県スポーツ推進委員協議会副会長）
瀧本 実（広島県議会議員）
濱田 泰伸（広島大学大学院医系科学研究科教授）
松本 直子（日本健康運動指導士会広島県支部副支部長）
箕野 博司（広島県町村会（北広島町長））
山垣内 俊行（広島県高等学校体育連盟会長）
山田 洋子（広島県PTA連合会）
和田 崇（県立広島大学経営情報学部経営学科教授）

4 議題

(1) 報告事項

ア 第2期スポーツ推進計画に掲げる成果指標の進捗状況

イ 令和4年度スポーツの振興に係る主要事業について

(2) 議事

令和4年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金の交付について

5 担当部署

広島県地域政策局スポーツ推進課地域スポーツ推進グループ

TEL (082) 513-2641

6 会議の内容

会議の公開について

会 長 ただ今から議事に入らせていただきます。時間も限られておりますので、皆様の御協力により、審議を円滑に、また、効率的に進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、先ほど事務局から説明のありました「会長職務代理者の指名」についてですが、会長職務代理者は、審議会条例第5条第3項の規定により、会長が指名することとなっておりますので、私から指名させていただきます。本県のスポーツ競技力向上やジュニア一貫指導体制構築、さらには総合型地域スポーツクラブの設立育成に携わっておられると伺っております、河野委員にお願いしたいと思います。河野委員よろしいでしょうか。

委 員 会長の御指名でございますので、務めさせていただければと思います。よろしくお願いします。

会 長 それでは、河野委員よろしくお願いいたします。

それでは、資料番号8の「広島県スポーツ推進審議会運営要領」の制定について、事務局から説明してください。

事務局 資料番号8をご覧ください。広島県スポーツ推進審議会運営要領というものです。広島県スポーツ推進審議会条例第8条において、「この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。」とされております。この規定に基づき、審議会の運営に関し必要な事項をあらかじめ要領として定めておくものでございます。内容的には、これまでと同じものですが、今回、委員の全員改選があったことに伴い、改めて、審議会に諮った上で制定いたします。具体的には、

第2条ではあらかじめ会長の承認を得た場合に代理人を出席させることができること、また第4条では審議会の開催を原則として公開することなどについて規定しております。このほか、第3条としまして、会長が必要と認める場合に、委員以外の者を出席させて意見の聴取等を行うことができるものと規定しております。広島県スポーツ推進審議会運営要領の制定についての御説明は以上でございます。

会 長 ただいまの説明について、御意見、御質問がありましたら、御発言ください。御意見がないようですので、運営要領の制定につきましては、御承認いただいたものとさせていただきます。次に、会議の公開について取り決めを行いたいと思います。事務局の方から説明してください。

事務局 会議の公開の取扱いについて説明をさせていただきます。
資料番号9を御覧ください。「知事が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則」でございます。広島県スポーツ推進審議会は、「知事が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則」第2条の規定により、原則、公開するものとされております。そして、同条第3項の規定により、「会議の公開方法」や「会議を非公開とする場合」の決定については、本審議会において決定するものとされております。これまでのスポーツ推進審議会では、いずれも同条第2項に定める「傍聴」と「議事録の閲覧」の両方により公開を行っておりますので、今回についても同様の方法による公開をご提案いたします。ただし、本日は傍聴希望者がありませんので、結果的には「議事録の閲覧」のみということになります。以上でございます。

会 長 ただ今の事務局からの提案について、特段の御異論がなければ、この方法により本会議を公開することとしたいと思いますが、いかがでしょうか。（異議なし）それでは、そのようにさせていただきます。

報告事項

会 長 それでは、次第の「1 報告事項」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 報告事項の方から説明させていただきたいと思います。
資料番号の1をご覧くださいませでしょうか。広島県では、当審議会にもお諮りした上で、平成30年度3月に第2期広島県スポーツ推進計画を策定いたしました。この計画では、基本理念でもある「スポーツを核とした豊かな地域づくり」を実現するため、四つの政策目標を掲げ、そのそれぞれに成果指標と目標値を設定してお

ります。この成果指標について、計画策定時点と、それからそれぞれの年度が経過した現時点における実績値を表に整理したものがこの資料でございます。まず、政策目標Ⅰの「スポーツを通じた地域・経済の活性化」でございますが、成果指標は、「スポーツによる地域の活気の創出や豊かさの実現度合い」であり、スポーツに関する取組により、地域に活気や豊かさ生まれている状態を令和5年度の目標値としております。活気や豊かさといった目標につきましては、数値化による測定が難しい定性的な目標であるため、平成30年度、そして令和元年度から令和3年度までいずれの欄も進捗状況はバーで表示しております。次に、政策目標Ⅱの「スポーツを通じた健康長寿の達成とスポーツ参画人口の拡大」でございますが、成果指標は、「20歳以上の県民の週1回以上のスポーツ実施率」であり、令和3年度の目標値である65%に対しまして、平成30年度が47.9%、令和元年度は41.8%、令和2年度は50.1%、そして令和3年度、この1月にアンケート調査をしたところ、47.5%となっております。この内容についてはまた説明させていただきます。次に、政策目標Ⅲの「競技力の向上」でございますが、成果指標は、「国体における男女総合成績及び少年の部の成績、並びに全国障害者スポーツ大会のメダル獲得率」としてしております。このうち国体の成績につきましては、令和5年度の目標値である総合8位、少年14位に対しまして、平成30年度が総合18位、少年27位、令和元年度は総合20位、少年26位となっております。また、全国障害者スポーツ大会のメダル獲得率につきましては、令和5年度の目標値である62.3%に対しまして、平成30年度が62.3%、令和元年度は台風により、茨城県の方に台風がきまして、大会が中止となっております。なお、令和2年度及び3年度におきましては、国民体育大会におきましても、全国障害者スポーツ大会におきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となっております。よってバーで表させていただいております。最後に施策目標Ⅳの「スポーツを通じた、多様性が尊重される平和で持続可能な社会の実現」でございますが、成果指標は、「人権・平和・環境とスポーツが連携したイベント数」であり、令和5年度目標値である15件に対しまして、平成30年度が2件、令和元年度は3件、令和2年度、3年度ともに2件となっております。なおここで少し戻りますが、政策目標Ⅱの目標値の令和5年度の65%の下に※印がございます。令和3年度の国の目標値であり、同年度での達成を目指すこと、令和5年度の目標値は、令和3年度の実績値を見た上で設定するとあります。今回、広島県の令和3年度の20歳以上の県民の週1回以上のスポーツ実施率は47.5%となっており、目標値より低い数値となっております。また、国の方も65%という目標値を持っておりますが、今年56.4%という目標値よりも低い数値となっております。スポーツ庁におきまして、この3月末に第三期のスポーツ基本計画が出される予定です。3月の初めにその答申が出ておりまして「この20歳以上の県民のス

スポーツ実施率のところについて、第2期計画において設定した目標値には達成しておらず、引き続き目標達成に向けた環境整備、機運醸成を行う必要がある」との見解が示されているところです。当県としましては、令和3年度の数値を見ながら、また令和5年度目標値の設定を踏まえていくところではあるのですが、国からまだ第三期の基本計画が出ておりませんので、そういった国の動向も勘案しながら今後また審議会の方に諮らせていただくなど来年度以降考えていきたいと思っておりますので、またどうぞよろしくお願いいたします。本日は申し訳ないのですが、この数値、令和3年度 47.5%が出ましたという進捗状況のところをご説明させていただきたいと思います。今後国の動向によりまた審議を諮らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に資料番号2をご覧ください。「安心 誇り 挑戦 ひろしまビジョン」の進捗状況でございます。広島県におきましては、スポーツ推進計画も策定しております。先ほどの総括官の挨拶にもありましたように平成31年3月に、平成31年度から5年間の計画しております。これは「スポーツに関する事務を管理し執行することとされた地方公共団体は、国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする」というスポーツ基本法の根拠法に基づくものでございます。令和2年10月には、広島県総合計画として、今お手元にお配りしております「安心 誇り 挑戦 ひろしまビジョン」を策定しております。またこのビジョンとともにその実効性を確保するため、具体的な施策等を記載する5年間（令和3年度から令和7年度）のアクションプランも策定しております。このひろしまビジョンは、本県行政の全体方針や構想を示すものでございまして、スポーツ推進計画、個別分野に係わる推進計画などもありつつ、県が策定するすべての計画は、ビジョンに示す目指す姿を具体化する方策として、方向性を同じく策定していくものでございます。第2期スポーツ推進計画の方が数年前の平成31年3月策定とされており、その間の社会情勢の変化なども含め、若干、こちらのひろしまビジョンの方が新たな指標や目指す姿が入っているところではございますが、当課としてはこのスポーツ推進計画の指標とともにこのひろしまビジョンの指標も同じように念頭におきつつ業務をしておりますので、こちらの指標についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。

お手元の冊子の方に途中挟んでいるんですけども、62ページがこちらの方がスポーツ文化のページでございます。この左下の方に大きな指標を定めております。これは10年間のビジョン指標です。スポーツを楽しむことを誇りに思う県民の割合、ビジョン策定時は52.4%と広島県は全国1位となっております。令和2年度28.7%ですごく下がっている、どうしたのだろうと多分思われると思うんですが、全国1位には変わらないんですけども、このビジョンを策定した後に52.4%と出

した地域ブランド調査という調査が終了してしまいまして、同じ研究所の調査ではあるんですけども、この調査研究所に聞いたところ関係人口の意識調査に※2の調査が一番近い指標を示しているということで当課としてはこの調査を現在使わせていただいているところでございます。選択肢の数が違っていたり、どうしてここまで下がっているかといいますと、調査の方法が全く違うので、全体的にどうしても数値が下がってしまうという研究所からも言われているのですが、広島県の方が全国1位ということには変わりはありません。ただ目標値の令和7年度、令和12年度において、数値にかなり差が出ておりますので、今後の目標値についても検討していく必要があると考えているところでございます。次に「週に1日以上スポーツ実施率について」でございます。これはスポーツ推進計画と同じ指標を使っております。ビジョン策定時（令和元年度）は県41.8%、令和2年度50.1%、令和3年度47.5%となっております。目標値は令和7年度53.4%、令和10年度65%という指標を持っておりまして、今後もこの目標値を目指して施策等を考えているところでございます。

次ページをめくっていただきまして、「安心 誇り 挑戦 ひろしまビジョンアクションプラン」の進捗状況でございます。こちらの方は先ほどの大きなビジョンの中のより細かいアクションプラン、細かい指標を持っているものでございます。冊子63ページの右側に、目指す姿の実現に向けた取組の方向というものを決めております。1つ目が、スポーツを活用した地域活性化、県内各地域が取り組む地域特色のあるスポーツ資源を活用した地域活性化に向けスポーツアクティベーション広島、いわゆるSAHなんです、スポーツ推進課内にある組織なんです、SAHが中心となって戦略立案や関係団体とのネットワークの構築、関連情報の発信等を支援するという取組を持っております。2つ目が、誰もがスポーツを楽しむ環境の充実を示しております。県民がスポーツに身近に接する機会を増やすため、スポーツへのする・みる・ささえるといった多様なかわり方を促す環境を整備します。3つ目が、スポーツ競技力の向上を目指すという取組の方向性を示しております。その中の資料の中の指標でございますが、スポーツを活用した地域活性化のKPIについてでございますけども、「わがまちスポーツ」と名付けておりますが、スポーツの力を活用し、目指す姿の実現に向けた地域活性化に取り組む市町、後程詳しく説明いたしますけれども、スポーツの力を活用して地域活性化を目指す、そういった取組をしている市町数が、どのぐらいの市町があるかということ指標にしております。ビジョン策定時は3市町ございましたが、令和3年度は目標値の6市町と一緒にわがまちスポーツという地域活性化を目指しております。令和4年度から令和7年度までも8、10、12、14という市町数の目標値に向けてKPIを定めているところでございます。誰もがスポーツに親しむ環境の充実につきましては、スポーツ

を直接観戦した県民の割合、スポーツのボランティアに参加した県民の割合を KPI にしております。ビジョン策定時は、直接観戦した県民の割合は、国全体は 27.4% と低いんですが、広島県は 42.5% と高いものでした。令和 3 年度の目標値は 44% としているんですけど、実績は今 23.1% とコロナ渦の影響で低くなっております。スポーツボランティアに参加した県民の割合についてでございますが、ビジョン策定時は県は 10.4%、令和 3 年度は 12% という目標値を持っていますが、現在 7.8% となっております。スポーツ競技力の向上についての KPI でございますが、国民体育大会総合成績を KPI としております。天皇杯、国民体育大会、総合成績の天皇杯、ビジョン策定時は 20 位、成績少年の部は 26 位でございました。目標として令和 3 年度は天皇杯は 14 位、少年の部は 23 位を目標値としておりますけれども、先ほどもご説明しましたように、新型コロナウイルスの感染拡大を受けまして現在大会中止となっております、バーで示しております。

続きまして、資料番号 3 をご覧ください。広島県民のスポーツの実施状況につきまして、アンケート調査を実施しておりますので調査実施の概要を簡単に説明させていただきます。毎年インターネットによるアンケート調査を実施しており、標本数は前年同様、1,000 件とし、県内在住の 18 歳から 79 歳の男女を対象としております。3 ページ目をお開きいただけますでしょうか。政策目標Ⅱの成果指標でもあるスポーツ実施率ですが、今回の調査では 47.5% となっており、前年度の 50.1% から減少しており、全体的に前年度を下回っています。性別では、棒グラフで表示されている部分ですが、10 代（18-19 歳）と 70 代では女性の実施率の方が高いですが、全体でみると男性の実施率が高くなっております。年代別では、折れ線グラフを見ていただくとわかりやすいですが、40 代の実施率が 37.3% と特に低く、そこから高齢層になるにつれて高くなる傾向がございます。また、3 ページ下部の表にありますとおり、「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりがない」と答えた「無関心層」が 27.6% 存在している一方で、「現在運動・スポーツはしていないが、6 か月以内に始めようと思っている」と答えた者が 4.2% 存在しております。これらの方が、今後始めたいと考えている種目としましては、「ランニング」「トレーニング」「階段昇降」「自転車・サイクリング」等が上位となっております。4 ページをお開きください。この 1 年間に行った運動・スポーツの種目について調査を行っております。「ウォーキング」「階段昇降」「体操」が上位となっており、昨年度から上位の種目に変動はありませんでした。5 ページ目をお開きください。運動・スポーツを行った、実施頻度が増えた理由について調査を行っております。運動・スポーツを行った理由として、「健康のため」が 75.2% と最も多く、「体力増進・維持のため」の 57.3%、「運動不足を感じたから」の 44.6% などが続いております。また、実施頻度が増えた理由としては、「仕事が忙しくなったから」の 21.9%

が最も多く、「コロナウイルス感染症対策による日常生活が変化したから」の21.1%、「健康になったから」と「運動・スポーツが好きになったから」の13.2%が続いています。6 ページ目をお開きください。逆に実施頻度が減った、あるいは増やせない理由について尋ねており、「仕事や家事が忙しいから」の26.7%が最も多く、「面倒くさいからの23.4%、「年をとったから」の16.8%などが続いております。7 ページ目をお開きください。「みる」スポーツと「ささえる」スポーツについて、調査を行っております。まず、この1年に直接現地でスポーツ観戦を行った方の割合は23.1%となっております。このうち種目別で最も多いプロ野球の17.6%については、全国平均の15.4%を大きく上回っております。また、テレビ・インターネットによる観戦においてもプロ野球が50.6%と最も多くなっております。8 ページ目をお開きください。スポーツに関するボランティアの実施状況ですが、定期・不定期にボランティアに参加した方の割合は3.9%で、その具体的内容としましては「大会・イベントの運営や世話」が24.4%と最も高く、「スポーツの審判」の21.8%、「自身やお子様が所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動」の21.8%が続いております。9 ページ目をお開きください。スポーツが個人や社会にもたらす効果について、調査しております。回答は、「健康・体力の保持増進」が61.6%で最も高く、「精神的な充足感」の35.2%、「人と人との交流」の34.7%が続いております。次に、ページ下部の表では、地域資源であるスポーツの活用が地域の活性化に役立つかという問いに対して、「そう思う」と答えた方の割合が41.4%となっております。10 ページ目をお開きください。スポーツの実施状況における環境の変化について尋ねております。この1年間にあったスポーツを実施する環境の変化は、「自宅等の屋内でのスポーツや運動を実施することが多くなった」が8.3%で最も多く、「緊急事態宣言により自粛していたため、自らスポーツの実施を控えていた」が7.2%、「屋外でのスポーツを実施することが多くなった」6.6%などが続いております。調査結果の概要は以上のとおりでございます。

こうした調査結果等も踏まえながら、スポーツを通じた地域・経済の活性化や、健康長寿の延伸、競技力の強化といった第2期スポーツ推進計画の目指す目標に向けて、引き続き総合的に取組を進めていくとともに、次の第3期スポーツ推進計画が再来年度の令和5年度に策定予定であるため、来年度以降、第3期の推進計画策定の準備に計画的に取り組んでいきたいと考えております。

なお、スポーツ庁におきましては、先ほど申し上げました、この3月末に第3期スポーツ基本計画が大臣決定され、公示される予定となっておりますので、県といたしましても、国の「第3期スポーツ基本計画」を勘案し、第2期スポーツ推進計画の取組の成果や社会情勢の変化等も踏まえながら、来年度以降計画的に取り組んでまいります。引き続き、委員の皆様に、ご意見等承りながら、検討してまいります。

いと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、資料番号4でございます。令和4年度スポーツの推進に係る主要事業について御説明いたします。スポーツ推進に係る事業としては、3の「主な事業の概要」にございますような事業を展開しております。令和4年度の予算額は地域政策局の8億8千6百万円余、教育委員会分が4千3百万円余となっており、前年度と比べまして、地域政策局分は6億7千百万円余の減、教育委員会分は2百万円余の減となっております。これは、主にオリンピック関連事業の終了や新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業の停止などによるものでございます。これらの事業のうち、いくつかを資料4-1以降で個別にご説明いたします。それでは競技スポーツの推進の方からお願いいたします。

事務局

資料番号4-1をご覧ください。令和4年度ジュニア選手育成強化事業についてご説明させていただきます。先ほども説明にありました、国民総合体育大会8位の目標達成に向けまして、今回ボトルネックでありますジュニアアスリートについて、発掘育成強化を系統的に構築することによりまして、競技力の向上を図り、先ほどの目標値としております、令和7年度の国体少年種別の得点へ繋げていきたいと考えております。方向性と致しましては、2番にありますとおり、中学生を対象に集中的な発掘育成強化を図るため、令和3年度から「ひろしまスポーツアカデミー」をスタートしております。今までの小学生を対象にした取組に加えまして、中学校での発掘育成へ繋げるものです。また、中学校、高校と連続した育成強化を図るため、高校部活動を対象とした競技力向上拠点校事業を拡大し実施することとしております。3番にスポーツ協会補助事業の一覧を載せております。発掘事業といたしましては、小学生を対象としたスーパージュニア育成プログラム、小学校5～6年生を対象にしていたプログラムですけれども、今年度から小学校4年生にも対象学年を拡大しております。また、競技団体への補助金でございますが、発掘企画配分ということで競技団体が主催されます発掘の補助金を配分することとしております。先ほどの方向性でも説明させていただきました、「ひろしまスポーツアカデミー」では、中学生を対象にいたしました事業を今年度から開催しております。こちらについては、競技拠点、指導者、選手と、ポテンシャルの高い競技を絞りまして、4種目程度ではありますが集中的に育成を図るものでございます。また先ほど、発掘の補助金が競技団体へということがありましたが、同じように育成のところでも競技団体への補助金を確保しているところであります。続いて、強化のカテゴリーでございます。競技団体への補助金といたしまして、競技団体が主催されます補助事業につきまして6,300万円を確保しているところでございます。また、オリンピック対策事業といたしまして、東京オリンピックは終了しましたが、今後の冬季も含めたオリンピックに向けてのジュニア対策事業として予算を確保しているところ

ろでございます。それ以外といたしましては、医科学サポート、指導者養成に予算を1,470万円ほど確保しております、スポーツ協会へのジュニア強化育成事業といたしましては、1億6,000万ほど予算を確保しております。また、4番のその他のジュニア育成強化事業のところで、令和4年度予算として2,973万5千円ほど確保しているところです。先ほど方向性のところでも説明させていただきました高校のところでも強化を図るために、競技力向上拠点校事業を広島県の方で指定しております。こちらの拠点校を拡充いたしまして、予算を2千6百万確保しているところでございます。また、国体種目以外のオリンピックで活躍するアスリートを輩出するためにアーバンスポーツなどのジュニアアスリートの育成を支援するために、373万5千円、別に確保させていただいているところでございます。資料4-1についての説明は以上です。

事務局

次にパラスポーツの推進についてご説明させていただきたいと思います。

資料番号4-2をご覧ください。冒頭の総括官の挨拶にもありましたとおり誰もがスポーツに親しむ環境の推進、体制の強化ということで、この4月からパラスポーツ担当が設置されます。東京2020パラリンピック競技大会や北京2022冬季パラリンピック競技大会等により、パラスポーツへの関心や多様性が尊重される共生社会の実現への機運醸成の高まり等を踏まえまして、パラスポーツの更なる普及振興を目指し、戦略的なパラスポーツ推進事業を展開するため、この度パラスポーツ担当が設置されることとなりました。障害の有無や年齢・性別を問わず、誰もが参画し楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなるよう幅広い観点から総合的にパラスポーツを施策展開するため、県庁の中でもスポーツ推進課だけではなく、パラスポーツ推進会議を立ち上げまして、総括官をチームリーダーとし、「私らしい生き方応援課」、どのような課かなと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、人権とか男女共同参画というような以前はそういった課が今一緒になりまして「私らしい生き方応援課」という課になっております。それから福祉関係のことで障害者支援課、教育委員会の特別支援学校などをとりまとめている特別支援教育課、それとスポーツ推進課の4つの課で連携しながら、関係部局で横断的に連携してこういったパラスポーツの推進会議を立ち上げまして、県庁内でもよく連携を図っていきたいと思っております。パラスポーツ担当としましては、パラスポーツ施策の企画立案を広島県障害者スポーツ協会さんと関連機関と連携してより企画立案を深めていこうと。今障害者スポーツ協会さんが平成28年1月に立ち上がりまして5、6年が経過されたところでございます。今までもパラスポーツに関しましては、普及から競技力向上まで県の方も施策を考えまして協会さんの方でいろいろな事業と一緒に連携させていただいているところではございますが、さらにそういった事業を全県的に展開し、県と協会さんとでともに施策を考えていく、

そのようなことを今考えているところでございます。施策についてはともに考えているところですので今ここには書いていないのですが、後程補助金の方が出てくるんですが、パラスポーツにつきましてはパラリンピック大会の次の年に3つの大きい国際、国内大会も控えてございます。ハンザクラスのセーリング関係の国際大会が2つ、10月に行われる予定でございます。既に聞かれている方もいらっしゃると思いますが、スペシャルオリンピックスという有森裕子さんが理事長でいらっしゃる、知的障害のある方の大会が、中四国で初めて広島県に誘致されまして、そういった全国大会を11月に行われる予定でございまして、そういった機運醸成の中でさらに県と協会さんとの施策を充実したものに考えていきたいと思っております。説明は以上でございます。

事務局

それでは、「スポーツを活用した地域活性化事業」について報告いたします。

資料番号4-3をご覧ください。今皆さんのお手元にある青い本、スポーツ推進計画にも基本理念として掲げております「スポーツを核とした地域づくり」なんですけれども、それを実現するために、この令和2年4月に、資料の緑で書いている「もっと笑顔にひろしまを。スポーツの力で。」というのをビジョンとして「スポーツアクティベーションひろしま」、通称SAHという組織をスポーツ推進課内に立ち上げたところでございます。その代表には、行政職員ではなくてスポーツマネジメントに強い人物をとということで、外部から人材を招聘しております。この代表の神田康範は、サッカー元日本代表の本田圭佑のマネージャーやBリーグのライジングゼファー福岡のCEOを務めた後に、直近では九州にプロ野球の独立リーグを立ち上げ、現在では九州独立リーグの「熊本火の国サラマンダーズ」の球団代表をやっております。この熊本火の国サラマンダーズですけども、昨年7月、元カープの小窪が入団し、そこからさらにロッテに行ってさらにカープに帰ってきたので、もしかしたらみなさまもご存じかと思っています。そんな神田を代表に迎えて運営しているSAHですけども、「スポーツを活用した地域活性化」の実現に向けては、大きく2つ機能を有しているところでございます。資料の中ほどから下ですけども、まずは「わがまちスポーツの推進」でございます。この「わがまちスポーツ」というのは、県内の市町が実施する「スポーツを活用した地域活性化」の取組を我々はそう呼んでおります。わがまちスポーツに取り組む市町に対して、人的支援として、各市町の状況に応じて、専門家の知見などを活用しながら、企画立案だとか戦略策定、事業スキームの構築、事業効果の検証などを人的に支援しております。また、こちらには記載しておりませんが、この専門家の知見というところで申しますと、SAHでアドバイザリーボードという制度を用意しておりまして、本日欠席の和田委員、松本委員、三浦委員にご紹介いただいた山岡先生など、さまざまな分野の方に広島県スポーツ政策アドバイザーとして、ご意見やご提案をいただける仕組みも用

意しているところでございます。併せて、財政支援として、上限500万、補助率1/2の補助金も用意しております。そして、もうひとつの機能がスポーツ情報の戦略情報発信ということで、公式ホームページやSNSでの情報発信、そしてこの一番下の欄ですが、広島横断型スポーツ応援プロジェクトの展開などを行っております。それでは、少し駆け足になりますが、それぞれの取組を簡単にご説明いたします。一枚めくっていただいて、まずは、わがまちスポーツの進捗状況です。先程、アクションプランの指標の説明でもあったように、R2～R4で、予定も含め8つの市町で取り組んでいるところでございます。ざっと説明いたします。まず1枚めくっていただいて、2ページをご覧くださいませでしょうか。R2から取組を進めている3市町から、まずは福山市ですけれども、エフピコアリーナを核とした賑わいづくりとスポーツ参画人口拡大に取り組んでおります。エフピコアリーナの特徴的な施設であるクライミングウォールやスケボーパークなどを活用し、パラクライミングの大会やスケボー教室の開催などに取り組んでおられます。その下3ページをご覧くださいませでしょうか。そして、府中市は「ものづくりのまち」という特色を生かして、ものづくり×スポーツでTechySportsというブランドを打ち出しています。具体的には、ドローン大会、オンラインマラソン、手作りのエンジンカーでレースをするゼロハンカー日本大会などのイベントを開催しながら、TechySports、ものづくり×スポーツの市内外への浸透に取り組んでおられます。続いて4ページをご覧くださいませでしょうか。北広島町でございます。北広島には、ソフトテニスやウィンタースポーツ、聖湖でのアクティビティなどさまざまなスポーツ資源があるのですが、北広島では「誰もが参加でき、楽しさや喜び、幸せを感じる身体活動」をきたひろしまスポーツ、きたスポと位置づけまして、町の観光や文化などと組み合わせ、町民に広げていきたいと思いますということをやっています。続いて、R3から取組を始めた3市について御紹介いたします。5ページをご覧ください。まずは呉市です。呉市ではもともと島しょ部において、さまざまなアウトドアイベント、たとえばオレンジライドやとびしまマラソンなどが開催されていたところです。ただ、それぞれバラバラで実施主体が異なり、それぞれが単発の取組となっておりました。それら複数の取組をラッピングして、ひとつのブランドとして打ち出そうという取組を進めております。新聞等でもご覧になっておられるかもしれませんが、こちらに記載のようなロゴマークやキャッチフレーズを今年度決めたところです。今年度はコロナであまりイベントの開催ができなかったところですが、次年度以降、スポーツ&ワンダーの一貫したブランドでそれぞれのイベントを進めていくこととしております。続いて6、7ページをご覧ください。三次市と廿日市市でございます。みなさん、少しずつ「女子野球」という言葉を耳にしたことがあるのではないかなと思っているのですが、たとえば、この日曜日の中国新聞で

は、中四国初の社会人女子硬式野球チームがオープン戦を行いましたという記事が出たところです。また昨年末では、イチローが高校女子野球チームと対戦をしたということが話題となりました。またもう少し遡れば、高校の女子野球の大会がこの夏、初めて甲子園で行われたことも話題になったところでございます。三次市と廿日市では、ともに全日本女子野球連盟から「女子野球タウン」という称号みたいなものの認定を受け、この女子野球を活用して取組を進めていこうという動きをされております。三次市は、Topics のところにあるように、女子硬式野球西日本大会の誘致・開催を核とした地域活性化、そして、廿日市市は、佐伯高校女子硬式野球部や、先程少し触れた社会人女子硬式野球チーム、はつかいちサンブレイズの魅力発信を通じて、地域を元気にしていこうと取り組んでおられます。8 ページをご覧ください。これは R4 年度以降の取組となりますが、尾道市と大崎上島町で取組を進めてまいります。尾道市のスポーツといえば、サイクリングのイメージがありますが、実は島しょ部のほうでマリンスポーツが盛んでございまして、そちらを新たなブランドとして育てていきたいということで市長からご相談をいただいております。そして、大崎上島町では県内でもかなり急速な高齢化が進んでいる中で、叡智学園や大崎海星高校など、高齢化が進んでいる一方で若年層人口も多いという町の特徴を生かしまして、島民が幅広く楽しめるスポーツを新たに開発して、みんなでスポーツにいそもうという取組を次年度から進めようとしてされています。先程のアクションプランでわがまちスポーツを増やしていこうという指標を掲げていたんですけども、当面、我々は取組市町数を増やして、県内のあちこちでこういった取組が行われているという状況を作ってまいりたいと考えております。続きまして、スポーツの戦略的情報発信についてでございます。10 ページと 11 ページをご覧ください。まずは、広島横断型スポーツ応援プロジェクトについてでございます。みなさん、広島のスポーツチームといえば、真っ先にカープ、サンフレ、ドラフラ、JT サンダーズなどを思い浮かばれる方が多いと思います。たとえば先日プレーオフまで進出したハンドボールのイズミメイプルレッズ、日曜日の試合で初勝利を飾ったラグビーのマツダスカイアクティブズ広島など、広島には全国のリーグで活躍されているトップチームが数多く存在しているというところでございます。ただ、私も含めてなんですが、なかなか県民の中ではまだ十分に認知が進んでいない状況が見られますので、県民にもっともっと知ってもらい、もっと触れてもらって、もっと楽しんでいただきたいという想いを込めまして、こちらの広島横断型スポーツ応援プロジェクト TeamWISH というものを明日から始動させます。上のページの、見えないかもしれないですけども、26 チームのロゴが並んでいるんですけども、こちらの 26 チームと連携して県民参加型の試合結果予想ゲームを運営してまいります。この 10 ページの四角囲みですごく簡単に書いているんですけど、試

合結果予想といいましても、たとえば「カーブと阪神、勝つのはどっち？」というのをというものではなく、こちらに画像を載せておりますように、たとえば「サンフレの佐々木選手のシュート数とオイラーズのサービスエース、多いのはどっち？」のような、競技やチームの枠を超えた試合予想ゲームを用意しております。まずは、明日の昼にシャレオでオープニングイベントを開催いたします。ここには、なんと県内 26 チームから 1 名ずつ集まっていただき、カーブ、サンフレ含めお集まりいただいてそこにユニフォームを着て登場していただくことで「広島にはこんなにたくさんのチームがあるんだ」ということをアピールしていきたいと考えております。みなさまもぜひよろしければご覧いただければと思います。12 ページと 13 ページをご覧ください。その他の情報発信といたしましては、SAH の公式ホームページの運営として、トップアスリートから地域密着型のスポーツチームなど幅広いレンジでのインタビュー記事だとか、当審議会の和田先生、松本先生のスポーツコラムなどを掲載しております。そして次の 13 ページですけれども、今、ドラフラと JT サンザーズ、中国電力ラグビーのレッドレグリオンズのご厚意で、あちこちに SAH のロゴを掲出させていただいております。特に、左のこの B リーグ、V リーグでの会場内 SAH バナー、看板です、これで見てもわかるとおり結構で大きいバナーですけれども、そういったものを好意で、ただで出させていただいているということで、広島県もだんだんチームとの信頼関係もできてきたのかなと考えております。本日の会長の挨拶でも言われていましたが、県内のスポーツチームは、県民の宝だと思っております、今後もスポーツチームとの連携も深めて、広島県版のわがまちスポーツとして、そして県民全体を元気にしていければと考えておるところでございます。以上で、資料 4－3 の説明を終わります。

事務局

それでは失礼いたします。私の方からは広島県教育委員会におけますスポーツの推進にかかわる主要事業についてご説明をさせていただきます。

資料 4 の 2 枚目をご覧ください。（２）で示している、私の方からは 3 点の事業について説明いたします。まず 1 点目が体力運動能力向上推進事業でございます。こちらの事業につきましては、学校の学業兼体育に関する指導を充実させることにより子供運動好きそしてスポーツ好きを増やすことによって、結果として児童生徒が運動に取り組むようになり、体力が向上する、このようなことを目標に事業を進めております。具体的に行っております事業は大きく二つの柱がありまして、一つ目は学校に対する指導者の派遣でございます。県教育委員会では各学校の方にアスリートを当審議会の委員でおられます大段先生にもお手伝いいただき、学校の方にアスリート、運動スポーツの指導者を派遣しまして出前授業を実施していただく内容でございます。こちらによって子供たちに直接運動やスポーツの楽しさを学んでもらうという事業でございます。もう一つの柱が、教員の指導力向上でございます。

全市町を対象とした研修事業でしたり、体育授業の各領域における研修の方を実施しまして、広島県内すべての教員の指導力向上を図っております。ここで、現在の広島県の児童生徒の体育の一つの指標でございます、体力合計点の推移について説明いたします。資料4-4、(1)縦1をご覧ください。この区間は平成23年度から今年度までの本県児童生徒及び全国の児童生徒の体力合計点、これの平均値の推移を、広島県は実線、全国は点線で各学校段階、男女別で示しております。なお、令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査の実施を見送っております。本県の児童生徒の体力は、平成30年度まで上昇傾向にありましたが、本年度の調査では高等学校段階第二学年の女子以外につきましては、令和元年度の調査結果を下回る結果となっております。本年度の調査結果の要因につきましては、市町等への聞き取り等により、新型コロナウイルス感染拡大防止のための様々な行動制限による影響があったものと考えております。なお、令和元年度の調査において全国的に児童生徒の体力が低下しておりますが、国は、その主な背景として授業以外の運動時間の減少を提示しております。資料4-4、裏面の縦2をご覧ください。この表は児童生徒のアンケートにおいて、運動、これは体を動かす遊びを含んだという形ですが、「スポーツをすることは好きですか」の問いに対し、「好き、やや好き」と答えた児童生徒の割合を示しております。男女ともに小学校段階、中学校段階において大きな変化が見られず、小学校、中学校、高等学校すべての段階において男子に比べ女子の「好き、やや好き」と回答する児童生徒の割合が低くなっております。教育委員会といたしましては、学校で行われた体育に関する指導改善の取組の好事例を紹介するなど、引き続き児童生徒の運動スポーツに対する意欲関心を高める取組の充実を図り、児童生徒の運動やスポーツに対する愛顧度を高める中で体力の向上を掲げてまいりたいと考えております。

続きまして、2つめの事業、オリンピック・パラリンピック教育推進事業について説明します。こちらの事業は平成28年度から令和3年度まで、国の事業を活用しまして学校でオリンピック・パラリンピックを教材とした授業を学校で行いスポーツの意義や価値を子供たちに伝えていくというような教育でございます。これを実施することで、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し児童生徒のスポーツに対する学びを深めるこれを目標に令和3年度まで実施してまいりました。県教育委員会ではすべての学校でこのオリンピック・パラリンピック教育を実施することを目標に現在も引き続き取り組んでおります。現状といたしましては、中学校段階で県内85%の学校がオリンピック・パラリンピック教育を実施しており、約55%の小学校で実施されております。小学校の方が若干低い値となっておりますが、これは、中学校は体育の授業の領域の中に体育理論という領域がありまして、そちらの中でオリンピック・パラリンピックが取り扱いやすいのですが、小学校ではい

わゆる座学の体育理論の領域がないのでなかなか取りにくいという声を聞いております。こういった声を受けまして、オリンピック・パラリンピック教育の推進校を県教育委員会で指定し、モデル事業を学校段階ごとに作成し、ホームページで公開しております。今後このモデル事業を参考に多くの学校でオリンピック・パラリンピック教育が実施されるよう取組を進めてまいりたいと考えております。続きまして最後、体育大会助成事業でございます。県教育委員会では小学生体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟に対して大会の助成の事業を行っております。小学生体育館連盟に関しましては、小学生総合体育大会、中学校体育連盟、高等学校体育連盟に対しましては、中国ブロック大会への助成をしております。教育委員会に関わる事業の説明は以上でございます。

会 長 ただ今の説明についてご意見等ありましたらいただきたいと思います。

委 員 本当に詳しい説明をいただきありがとうございます。たくさん情報をいただいたので私もまだ正直消化しきれていない状態ではありますが、私は国際連合なので、国連の視点からというところで。最初の資料番号1の表の4番目、スポーツを通じた多様性が尊重される平和で持続可能な社会の実現、ここの部分が、私の国連の背景の国連からの視点も提供できるところかなと思っております。実績を見た中で、ピースナイター、ピースマッチを通じて実施をされていらっしゃるということで、本当に頑張っているのだと思います。本当にこれはこれから将来の話なのですが、私たちも中国地方にある唯一の国連機関なのでどこかで協働させていただいて4番の柱のところを促進できる何かのお手伝いができたらなと思っているところをまず申し上げます。国連ユニタール広島事務所の方は親善大使を設けておりまして、今は陸上選手の為末大さんに親善大使になっていただいています。せっかく親善大使の為末さんもいらっしゃるの、そこもまた一つの視点として何か貢献ができるのかなと思いました。私の方からは以上です。ありがとうございます。

会 長 事務局の方、何かお答えはよろしいですか。

事務局 ありがとうございます。先ほども私共の方からもご説明させていただきましたが、スポーツの競技団体と一緒にやっている取組ですとか、市町と一緒に取り組む「わがまちスポーツ」ですとか、そういったところでいろんなスポーツに関する取組というのをやろうとしておりますので、親善大使も含めまして連携させていただけるような機会がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。

会 長 それではその他の方、質問はありませんでしょうか。事務局においては、本日の意見を参考にして、施策を進めてください。

議事：令和4年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金の交付について

会 長 それでは、次第の「2議題」の「令和4年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金の交付」について、事務局から説明してください。

事務局 資料番号5をご覧くださいませでしょうか。スポーツ基本法第35条の規定により、地方公共団体がスポーツ団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、スポーツ推進審議会等その他の合議制の機関の意見を聴くこととされているため、広島県スポーツ推進審議会の意見を求めることになっております。交付先団体といたしましては、「3」にあげておりです。

詳細につきましては、資料番号5-2の表をご覧くださいませでしょうか。こちらが体育・スポーツ関係団体に対する補助金一覧表でございます。こちらの表の中で、簡単に来年度の補助金についてご説明させていただきだいたいと思います。まず一つ目、地域スポーツの推進ということで、スポーツ推進委員協議会さんの方に補助金がございます。毎年同じ額となっております。競技スポーツ推進といたしまして、2から11までの団体に補助金の予算を計上しております。東京オリンピック対策の終了があり、大きく予算が下がっております。また昨年度は、廿日市で行われましたアジアトライアスロン選手権等の大会補助金分が減少しておりまして、全体的に競技スポーツの推進については、補助金が出がっているところであります。

次に障害者スポーツについてご説明いたします。先ほど簡単に申し上げましたが、パラスポーツの推進のために全国調査等を行うための障害者スポーツ協会への補助金が増額になっている一方で、障害者スポーツ協会に補助金、団体事業費としてパラリンピック聖火フェスティバルにかかる補助金等が昨年度はございましたが、そういった事業も終わりましたので、そのような補助金については下がっているところであります。セーリングの国際大会が2大会、また、スペシャルオリンピックのような大きな国内大会を広島県に誘致して開催されます。そういった機運醸成を、県としても応援していくということで、補助金が増額となっております。教育委員会関係につきましては、事業費が26,000円減額となっております事業についての大きな変更はございません。

会 長 ただいまの説明について、御意見、御質問がありましたら、御発言ください。

委 員 すごくピンポイントな質問をしてもいいのかわからないのですが、県中体連の予

算について、少し気になったので、ご説明いただけたらありがたいなと思いました。

会 長 事務局にて回答をよろしくお願いします。

事務局 県中学校体育連盟への補助金ですが、主に団体の運営費として、これは毎年 11 万円の補助を出させていただいております。大会開催費につきましては、中国大会を補助対象としておりまして、これは中国 5 県で持ち回りとなっておりますもので、毎年種目が変わることによって、額が変動するということでございます。このような理由で変更ということでございます。以上です。

会 長 他に御意見はよろしいでしょうか。それでは、事務局においては、本日の意見を参考にして、関係団体に対する補助金交付事務を進めてください。

7 会議の資料名一覧

- | | |
|-----------|--|
| 資料番号 1 | 第 2 期広島県スポーツ推進計画に掲げる成果指標の進捗状況 |
| 資料番号 2 | 安心 ▶ 誇り ▶ 挑戦 ひろしまビジョン・アクションプランの進捗状況 |
| 資料番号 3 | 令和 3 年度「広島県民のスポーツの実施状況等に関する調査」について |
| 資料番号 4 | 令和 4 年度スポーツの推進に係る主要事業について |
| 資料番号 4－1 | ジュニア選手強化事業について |
| 資料番号 4－2 | パラスポーツ推進事業について |
| 資料番号 4－3 | スポーツを活用した地域活性化事業について |
| 資料番号 4－4 | 広島県の体力合計点平均値の推移 |
| 資料番号 5 | 議題説明資料 |
| 資料番号 5－1 | 令和 4 年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金一覧（総括表） |
| 資料番号 5－2 | 令和 4 年度体育・スポーツ関係団体に対する補助金一覧表 |
| 資料番号 6 | スポーツ基本法（抜粋） |
| 資料番号 7 | 広島県スポーツ推進審議会条例 |
| 資料番号 8 | 広島県スポーツ推進審議会運営要領 |
| 資料番号 9 | 知事が所管する附属機関等の会議の公開に関する規則 |
| 資料番号 10－1 | 安心 ▶ 誇り ▶ 挑戦 ひろしまビジョン(スポーツ・文化) |
| 資料番号 10－2 | 安心 ▶ 誇り ▶ 挑戦 ひろしまビジョン(スポーツ・文化)アクションプラン |